

# 研究資料

## 当代中国刊行美術関係期刊解題(一)

鶴田武良

- 一、はじめに
- 二、当代中国刊行美術関係期刊一覧
- 三、当代中国刊行美術関係期刊解題

### 一、はじめに

近年、中国における出版は経済の急速な進展とともに年毎に目覚ましい発展を遂げている。別けても定期刊行物の増加は著しく、予約購読誌目録である一九八三年版「中国発行定期刊行物目録」に挙げる人文・社会科学関係期刊は二百八十種であったが、一九八五年版では三百五十六種を数える。しかし、同目録に上らない、国外からの購読予約を受けない期刊を加えると、現在、中国で刊行されている期刊は少くとも右の数の二倍に上ると推測される。例えば一九八五年版「中国発行定期刊行物目録」の芸術(絵画・書道)の部に挙げるものは「美術」「広西美術」「美術研究」「中国画」「連環画報」「江蘇画刊」「書法」「世界美術」の八種にすぎず、それに「文物」「故宫博物院院刊」など古代美術に関連するものを加えても十数種に過ぎない。さらに日本国内の書店に並ぶ「中国美術」「藝苑掇英」などの不定期刊を入れても日本において購読できる美術関係期刊は三十種に満たない。

しかし、現在、中国国内で刊行されている美術関係期刊は八十種余に達し、関連する期刊を加えると九十種近くに及ぶ。筆者は一九八三年秋の約二ヶ月にわたった北京滞在と一九八四年五月及び十月の旅行でそれらについて少しく資料を得ることができた。中には日本に知られていない期刊もあるので、ここに紹介しておきたい。

なお、資料の調査・収集に当って中国美術家協会及び上海芸術研究所丁羲元氏から多くの協力を得た。記して謝意を表する。

## 二、当代中国刊行美術関係期刊一覧

### 一、機関誌

- 1、「美術」(中国美術家協会)
- 2、「中国美術」(中国美術家協会)

### 二、学報

- 3、「美術研究」(中央美术学院)
- 4、「世界美術」(中央美术学院)
- 5、「新美術」(浙江美术学院)
- 6、「美苑」(瀋陽魯迅美术学院)
- 7、「藝苑」(南京艺术学院)
- 8、「美術学報」(広州美术学院、不公開)
- 9、「西安美术学院学報」(西安美术学院、不公開)
- 10、「美術史論」(中国芸術研究院美術研究所)
- 11、「中国画研究」(中国画研究院)

### 三、中国画

- 12、「中国画」(北京画院)
- 13、「迎春花」(天津美術出版社)
- 14、「朶雲」(上海書画出版社)
- 15、「中国書画」(北京・人民美術出版社)

### 四、油画

- 16、「画廊」(天津人民美術出版社)

### 五、版画

- 17、「版画世界」(北京・人民美術出版社)
- 18、「版画芸術」(上海人民美術出版社)
- 19、「勁草木刻」(天津人民美術出版社)
- 20、「版画」(中国版画家协会)
- 21、「絲網制版」(北京市印刷技術研究所・中央美术学院版画系)

六、彫塑

22、「中国彫塑」(北京・人民美術出版社)

七、連環画

23、「連環画報」(北京・人民美術出版社)

24、「故事画報」(天津人民美術出版社)

25、「富春江画報」(浙江人民美術出版社)

26、「奥秘」(雲南省科普美術攝影協會)

27、「連環画研究」(中国連環画研究会)

八、漫画

28、「漫画選刊」(北京・人民美術出版社)

29、「諷刺与幽默」(北京・人民日報社)

30、「周末」(嶺南美術出版社)

31、「阿凡提」(新疆・阿凡提画報編輯部)

32、「刺黎画報」(中国美術家協會貴州分会)

九、書法

33、「中国書画」(北京・人民美術出版社)

34、「中国書法」(中国文芸連合出版公司)

35、「書法」(上海書画出版社)

36、「書法研究」(上海書画出版社)

37、「西泠藝叢」(西泠印社)

38、「鄧石如研究」(中国書法家協會安徽省分会)

十、美術史

39、「美術縱横」(江蘇人民出版社)

40、「美術史」(北京・現在準備中)

十一、中国古代美術

41、「文物」(文物出版社)

42、「考古」(科学出版社)

43、「故宫博物院院刊」(文物出版社)

44、「文博」(陝西人民出版社)

45、「中原文物」(中原文物編輯委員會)

46、「北京文物与攷古」(北京歷史考古叢書編集組)

47、「文物集刊」(文物出版社)

48、「南京博物院集刊」(南京博物院)

49、「上海博物館集刊」(上海古籍出版社)

50、「藝苑掇英」(上海人民美術出版社)

51、「敦煌研究」(甘肅人民出版社)

52、「敦煌学輯刊」(蘭州大学敦煌学研究組)

十二、外国美術

53、「世界美術」(中央美术学院)

54、「美術譯叢」(浙江美术学院)

十三、工芸美術

55、「裝飾」(中央工芸美术学院)

56、「实用美術」(上海人民美術出版社)

57、「装璜設計」(天津)

十四、插图

58、「插图」(天津美術出版社)

十五、綜合美術

59、「美術叢刊」(上海人民美術出版社)

60、「画廊」(嶺南美術出版社)

61、「畫刊」(安徽人民出版社)

62、「江蘇画刊」(江蘇美術出版社)

63、「廣西美術」(廣西人民出版社)

64、「造型藝術」(遼寧美術出版社)

65、「美術作品」(北京・人民美術出版社)

十六、美術書刊紹介

66、「美術之友」(北京・人民美術出版社)

十七、美術教育

67、「美術教育通訊」(南京師範學院)

十八、年鑑

68、「中国文芸年鑑」(文化芸術出版社)

69、「中国美術家名鑑」(中国美術家協會編)

70、「中国版画面鑑」(遼寧美術出版社)

71、「上海美術年刊」(上海人民美術出版社)

十九、建築

72、「建築学報」(中国建築工業出版社)

73、「建築」(北京建築工業出版社)

74、「建築師」(中国建築工業出版社)

二十、美術家協會及び地方分会内部刊行物(不公開)

75、「美術家通訊」(中国美術家協會)

76、「美術論壇」(廣東分会)

77、「黑竜江美術通訊」(黑竜江分会)

78、「美術家通訊」(陝西分会)

79、「画舫」(北京分会)

80、「江蘇美術家通訊」(江蘇分会)

81、「天津美術家通訊」(天津分会)

82、「山西美術」(山西分会)

83、「上海美術通訊」(上海分会)

二十一、美術関連重要期刊

84、「文藝報」(中国文学芸術界連合会機関誌)

85、「文藝研究」(中国芸術研究院)

86、「新文学史料」(人民文学出版社)

87、「文藝理論研究」(華東師範大学出版社)

88、「抗戰文藝研究」(四川省社会科学出版社)

89、「當代文藝思潮」(甘肅省)

- 90、「美学」(上海文艺出版社)  
 91、「美学論叢」(中国社会科学出版社)  
 92、「芸術世界」(上海文艺出版社)  
 補・一九八五年創刊、又は創刊予定の期刊。

- 93、「嶺南書法」(嶺南美術出版社)  
 94、「中国芸術」(北京・人民美術出版社)  
 95、「美術嚮導」(北京・人民美術出版社)  
 96、「美術耕耘」(山西)  
 97、「中国美術報」(中国芸術研究院美術研究所)  
 98、「詩書画」(山西人民出版社)  
 99、「幽默大師」(浙江人民美術出版社)  
 100、「笑哈哈」(北京)  
 101、「工芸美術論叢」(北京・人民美術出版社)  
 102、「美術思潮」(湖北美術中心)  
 103、「紅・黄・藍」(湖南)

### 三、当代中国刊行美術関係期刊解題

#### 1、「美術」Art

中国美術家協会「美術」編輯委員会編集。人民美術出版社出版。月刊。B5判。毎号六十四ページ。〇・九〇元。

本誌は一九四九年七月に成立した中華全国美術工作者協会の機関誌「人民美術」(同協会人民美術編輯委員会編集、北京新華書店刊、一九五〇年六月から同年十二月まで全六期を刊行)を継承するもので、中華全国美術工作者協会が一九五三年九月に中国美術家協会と改称した後、同協会の機関誌として一九五四年一月に創刊、月刊として刊行を続けていたが文化大革命の激化とともに刊行が乱れ、一九六六年四月に停刊した。文革が終息した後、一九七六年三月から隔月刊として復刊し、一九七九年四月から再び月刊となった。復刊後の一九七六年三月から一九七八年十一月刊行の同年第六期までは復刊後の総期数を付記していたが、一九七九年第一期から一九五

四年創刊以来の総期数に変えた。なお、一九七九年の刊行は全十一期である。一九八四年第十二期が総二百四期に当る。復刊後、一九八〇年第十二期までは毎号四十六ページであったが、一九八一年第一期から六十四ページとなった。

内容は美術のすべての部門を対象とし、評論、創作論、美術教育、中国古代美術及び外国美術紹介、国内美術界消息などから成り、カラー図版(表紙とも)十ページ、単色図版十ページに二十数点の作品紹介を行っている。

中国美術家協会は中国共産党中央宣伝部に属するもので、本誌は言はば政府の期刊であり、美術界に対する国家の方針を最も早く反映して伝え、また美術に関する主要な論争は大体本誌上で行われている。中国現代美術の動向を知る上で最も重要な出版物である。発行部数二十万余といわれ、美術関係期刊では中国最高である。

#### 2、「中国美術」

中国美術家協会「美術」編輯委員会編集。人民美術出版社出版。不定期刊。二五・八×二三センチ。七十二ページ。定価二・八〇元。

一九七九年六月創刊。大体、年二期づつ刊行されている。

「美術」が評論、創作問題など理論を主とするのに対し、本誌は作品紹介を主とし、全ページにアート紙を使用している。内容は現代画家及び画派の作品紹介を中心に評伝、論評を付し、また中国古代美術、宗教美術、民間美術、民族美術についても図版を中心にして紹介している。

#### 3、「美術研究」Art Research

中央美術学院「美術研究」編輯委員会編集。人民美術出版社出版。季刊。B5判。表紙とも九十二ページ。うちカラー図版(表紙とも)十二ページ。〇・七〇元。

本誌は季刊「中央美術学院・中央美術学院華東分院学报 美術研究」(美術研究編輯委員会編集、上海人民美術出版社出版、毎号百ページ前後)として一九五七年一月に第一期が創刊されたが、一九五八年に華東分院が浙江美術学院と改称すると、一九五八年第三期(総第七期)から「中央美術学院・浙江美術学院学报 美術研究」と改め、同時に編輯委員会を杭州から北京に移した。さらに翌一九五九年第一期(総第

九期)から中央美術学院学報「美術研究」と改め、中央美術学院美術研究編輯委員会編集、天津美術出版社出版に代ったが、一九六〇年第一期(総第十三期)から人民美術出版社出版となった。文革の激化により一九六六年に休刊、一九七九年二月に復刊し第一期を刊行した。なお、本誌は総期数を付記しない。

内容は美術教育、美術創作、美術運動、美術史、民間美術、業余美術などに関する研究論文及び外国美術紹介などを主とする。刊行当時の政治情勢を反映した論文が多く、解放後の美術の動向を知る上に「美術」とともに重要な期刊である。

#### 4、「世界美術」WORLD ART

中央美術学院「世界美術」編輯委員会編集。人民美術出版社出版。季刊。B5判。八十八ページ。〇・六〇元。

一九七九年に創刊、初年度は三冊を発行した。一九八四年第二期が総第二十一期に当る。

本誌は美術工作者及び文芸工作者を対象に世界各国の美術を紹介することを主要な目的として刊行されており、例えば一九八四年第二期にはヴァシーリイ・スリコフの「わが故郷、少年時代と創作」と題する文章、並びにネスチェラーフの「スリコフ」論、王衛明の「歌麿と浮世絵美人画」、陳暉の「中村正義の絵画作品」、姚治華の「探索に勇、不断に創新—加山又造先生の画作」、趙経寰の「日本版画技術の発展現状」、スザーフの「フランス・ハルス」、嘯声の「ヤン・フェルメール」、乙葉哲の「フランソワ・ブーシェとボンパドゥール」、山田智三郎の「十七・八世紀欧州美術における東亜の影響」、英人の「写実主義革命」、バーバラ・ロスの「三十年代の存亡の際」(いずれも中文訳)などの論文のほかに各国の美術消息を載せている。カラー図版(表紙とも)十ページ、単色図版二ページ。

#### 5、「新美術」NEW FINE ARTS

浙江美術学院「新美術」編輯部編集(総第十期)から浙江美術学院編集。上海人民美術出版社出版。季刊。B5判。百十ページ前後。カラー図版十二ページ、単色図版十二ページ。一・六〇元。

浙江美術学院は一九二八年創立の国立西湖芸術院に始まる。同院は一九三〇年、国立杭州芸術専科学校と改称し、解放後、中央美術学院華東分院と改め、さらに一九五八年に浙江美術学院として発足した。

本誌は一九五六年創刊の「美術研究」を前身とし、一九八〇年八月に創刊、第一期が刊行された。内容はマルクス・レーニン主義美学、毛沢東文芸思想、美術創作問題、美術史論、美術教育法、技法理論、美術家及び作品研究、評論、内外の美術消息などである。なお、第一期は「第二次全国高等芸術院校素描教学座談会學術報告」の特集に当てられている。

#### 6、「美苑」

魯迅美術学院学報編輯部編集・出版。隔月刊。B5判。六十四ページ。カラー図版(表紙とも)八ページ、単色図版四ページ。〇・六〇元。

一九八〇年五月に季刊として創刊され、一九八四年から隔月刊となった。内容は美術史、美学、美術教育、技法に関する論文、外国美術の紹介、内外の美術消息などで、時に同学院生の卒業論文のすぐれたものを載せる。

#### 7、「藝苑」

南京芸術学院編集。「藝苑」編輯部出版。季刊。B5判。百数十ページ。原色図版(表紙とも)八ページ。〇・六〇元。

一九七八年五月、内部刊行物「南藝学報」として創刊され、同年十一月に第二期を刊行したが、翌一九七九年五月発行の第三期から公開出版となり、同年十一月に第四期、翌一九八〇年に第五、第六期を刊行したのち、一九八一年から季刊となり、一九八一年第一期から名称を南藝学報「藝苑」と改めた。

南京芸術学院は一九五二年十二月上海美術専科学校、蘇州美術専科学校、山東大學芸術系が合併、華東芸術専科学校として無錫で開校し、一九五八年南京に移転、翌一九五九年に南京芸術学院と改称したもので、美術系、工芸美術系、音楽系の三系から成る。従って「藝苑」の内容は美学、美術史、書画創作、画家、工芸美術、民間美術、外国美術、美術史及び音楽、芸術教育などかなり広範囲にわたって

て、時に專題に関する文献目録を掲載する、なお、一九八二年第四期（総第十四期）は南京芸術学院建校七十周年併校三十周年の「校慶専刊」、一九八三年第一期（総第十五期）は「劉海粟教授芸術活動七十年専刊」に当てられている。

#### 8、「美術学報」

広州美術学院「美術学報」編集部編集・出版。不定期刊。B5判。百数十ページ。図版（カラーとも）十数ページ。不公開。

広州美術学院は一九五三年秋、華南文芸学院美術系、中南文芸学院美術系、広西芸術専科学校美術系が合併、中南美術専科学校として武昌で発足し、一九五八年広州に移転、翌一九五九年に広州美術学院と改称したもので、現在、中国画系、油画系、版画系、彫塑系、工芸美術系の五系をおき、それをさらに中国画、油画、版画、彫塑、装璜、陶瓷、染織、磨漆の八学科に分けている。

「美術学報」は学院の研究、創作活動を推進するために内部出版として一九七九年に創刊されたもので、一九八三年十一月に総第五期を刊行している。なお、総第五期は建校三十周年記念専刊である。

#### 9、「西安美术学院学報」

西安美术学院学報編集部編集。西安美术学院出版。B5判。五十二ページ（創刊号）。不公開。

西安美术学院は一九四八年山西省興県で開校、一九四九年六月西安に移転して、西北軍政大学芸術学院と名称を改め、翌五〇年、再び改称して西北芸術学院とし、さらに一九六〇年に西安美术学院と改称した。油画系、国画系、工芸系、版画系、彫塑系、師範系の六系を置く。

「西安美术学院学報」は同院の研究、美術創作の発表の場として一九八二年八月に第一期が不公開で刊行された。内容は創作、教育、美術史などに関する論文の外、表紙とも二〇ページに作品をカラー及び単色で紹介している。

なお、同院は西北芸術学院時代に「芸術生活」を、また一九七〇年代に「延安画刊」を刊行していた。

#### 10、「美術史論」

中国芸術研究院美術研究所「美術史論」叢刊編集部編集。天津人民美術出版社出版。不定期刊。二〇〇×十四・〇センチ。二百数十ページ。図版（表紙とも）十二ページ。一元。

美術研究所は中央美术学院付属中国絵画研究所として一九五三年六月に発足し、翌一九五四年に民族美術研究所と改称、ついで一九五九年に中国美術研究所と改められ、さらに一九八〇年に改組して中国芸術研究院美術研究所となり、中国美術史室、美術理論室、外国美術室の三室を置いた。近く現代美術研究室を置く予定である。本誌は文化芸術出版社から一九八一年八月に第一輯が、八二年七月に第二輯が刊行されたが、八二年八月刊行の第三輯から天津人民美術出版社に代った。内容は絵画、書法、篆刻、彫刻、工芸、陶瓷から民間美術まで広く美術全体にわたり、これらの歴史及び作家・作品研究、評論、画論、外国美術紹介などを主とし、現代中国絵画の研究にも少からぬページを割いている。

#### 11、「中国画研究」

中国画研究院編集。人民美術出版社出版。不定期刊。二〇・三×十四センチ。三百ページ前後。一元一・二〇元。

中国画研究院は文化部の唱導の下に、中国画の伝統を継承し、さらに発展させることを目的として、一九八一年十一月一日、李可染を院長として北京で発足した。

本誌は中国画研究院成立と同時に一九八一年十一月に第一期を刊行し、以後毎年一乃至二冊を刊行している。

内容は中国画を対象とし、創作論、画論、絵画史、画法、評論及び民間美術、少数民族美術などに関する研究論文集で、図版ページは置かない。

#### 12、「中国画」

北京画院「中国画」編輯委員会編集。北京出版社出版。季刊。二六・一×二三・一センチ。七十二ページ。二・五〇元。

北京画院はもと一九五七年五月に北京中国画院として発足し、翌五八年に北京市

の機関となり、さらに一九六五年に北京画院と改称し、成立当初からの中国画三室（山水画、人物画、花鳥画）に油画・彫塑・版画室、壁画創作室を加えた。

本誌ははじめ中国画編輯委員会編集、中国芸術出版社出版の季刊として一九五七年十一月に創刊第一期を刊行、翌五八年五月に総第二期を発行したが、第三期から北京中国画院中国画編輯委員会編集となった。一九六一年に総第二十一期を刊行した後停刊し、一九八一年六月復刊、同年は一冊を刊行しただけであったが、翌一九八二年から季刊として発行を続けている。一九八四年第二期が総第三十二期に当る。内容は作品の鑑賞を主とし、カラー図版（表紙とも）二十八ページに単色図版、挿図を加えて毎号百余点の中国画を紹介し、他に創作談、画史、画家論、古画鑑賞、技法、題画詩などに関する短文を載せる。時に特集を組むこともある。一般の絵画愛好者向けの教養誌といえる。

なお、総第三期から総第二十一期までは未見であるが、総第一、第二期はほぼB4判（三七・五×二六・五センチ）で、中国の古代から現代までの歴代絵画を図版によって紹介し、短文を付したものである。

### 13、「迎春花」

「迎春花」編輯部編集。天津人民美術出版社出版。季刊。B5判。毎期五十八ページ。一元。

本誌ははじめ不定期刊「中国画叢刊・迎春花」として一九八〇年二月に創刊され、途中（遅くとも一九八三年）から「中国画季刊・迎春花」と改められた。一九八三年第二期が総第十二期に当る。内容はほぼ毎期、表紙とも四十二ページを図版に充て、現代画家を主にして歴代名画家をも紹介し、画家論のほか技法論、創作論などの短文を載せる。中国画愛好家向けの教養的期刊である。

### 14、「朶雲」

上海書画出版社編集・出版。不定期刊。B5判。毎号二百四十ページ。カラー図版十ページ。単色図版十六ページ。二元。

一九八一年七月に創刊、一九八四年六月に第六期が刊行された。中国画創作の間

題及び中国絵画史、画論等の研究のために上海朶雲軒が主辦するもので、内容は画論、画家伝、伝統印刷研究、中国画史、文房、短文、作品紹介の七項目に分れ、主に論文を収める。「美術」「美術研究」「藝苑」「美術史論」「中国画研究」などと並ぶ中国絵画史研究の主要な期刊の一つである。中に朶雲軒、上海書画出版社発行の図書の商品を載せていることも当代中国では珍しい。

### 15、「中国書画」

人民美術出版社編輯・出版。不定期刊。B4判。毎期三十二ページ。アート紙使用。二・八〇元。

一九七九年三月創刊、一九八三年十二月に第十四期を出版した。本誌は中国現代絵画の紹介に大半のページを割き、一部を書法、篆刻、古代絵画及び創作談、評論、画家伝に当てている。現代の大家、中堅画家を中心に、新進の画家の作品をもカラー図版で紹介していて、現代絵画の状況を知る上に重要な期刊である。

### 16、「画廊」

天津人民美術出版社編輯・出版。不定期刊。二五・〇×二五・八センチ。二十四ページ。一・五〇元。

一九八〇年一月に「油画叢刊・画廊」として創刊された。内容は現代中国の油画を中心に水彩画、水粉画の作品紹介を主とし、画家紹介、油画写生、水粉写生、外国美術紹介などの項目に分れている。本誌は中国唯一の油画専門誌であり、現代中国の油画の動向を知る上で欠くことができない期刊である。

### 17、「版画世界」

版画世界編輯組（主編・李平凡）編集。人民美術出版社出版。不定期刊。二六・〇×二三・〇センチ。五十二ページ、内カラー図版四ページ。一・二〇元。

一九八三年三月創刊。内容は内外のすぐれた版画作品、版画研究に関する新刊図書、版画の新技术の紹介を主とし、内外版画界の消息を載せる。



18、「版画藝術」

上海人民美術出版社編輯・出版。不定期刊。二十六・〇×二十三・〇センチ。四〇ページ、内カラー図版四ページ。一・二〇元。

一九八〇年八月創刊。本誌は業余版画工作者及び版画愛好者を主な対象として、内外の版画作品の紹介を主に、創作談、技法、木刻版画史などの短文を載せる。

19、「勁草木刻」

天津人民美術出版社編集・出版。不定期刊。二十一・〇×一八・二センチ。四〇ページ。〇・五〇元。

一九八〇年一月創刊。本誌は木刻作品の発表を目的とするもので、黒白木刻作品を主に、創作談、評論、技法に関する短文を載せ、また外国作家の紹介をも行う。

20、「版画」

中国版画協会編集。隔月刊。

本誌ははじめ中国美術家協会版画編輯委員会編集、上海人民美術出版社出版の隔月刊（B5判、四十ページ、うち十ページは図版）として一九五六年十月に創刊されたが、一九六〇年六月に総第二十三期を刊行したのち停刊し、一九八〇年四月に中国版画家協会会刊として復刊、翌八一年に二期を刊行したのち、再び停刊した。創刊当初の内容は版画技法、創作談、作品紹介、外国版画界の消息などを主な内容とした。復刊後は全国の版画家を対象に創作と理論活動の推進、対外版画交流の促進を目的としている。未見。

21、「絲網制版」

技術問題を主とする内部交流誌。未見。

22、「中国彫塑」

「中国彫塑」籌備組編集。人民美術出版社出版。不定期刊。B5判。四十八ページ。一・一五元。

一九八三年二月創刊。本誌は他の美術関係期刊と同様、「為人民服務、為社会主义服務」の指導方針の下に首都美化、中国美化の運動の高まりの中で彫刻を都市美化の一環として考えることから生まれたもので、内容は中国の現代彫刻作品の紹介を主とし、古代彫刻芸術についても簡単な紹介を行っている。第一輯は最初の二ページに劉開渠の「彫塑芸術欣賞」と題する短文を載せるほかはすべて図版で、水泥石（セメント）、木彫、石彫、陶瓷など様々な素材の作品を掲げている。

現代中国の彫刻の動向を知ることのできる唯一の期刊物である。

23、「連環画報」

連環画報編輯部編集。人民美術出版社出版。月刊。B5判。五十二ページ。〇・三〇元。

連環画は連続絵本、もしくは絵物語ともいうべきもので、一齣毎に図と図解の文章とを並置しながら連続して物語の筋を展開させてゆくもの。日中戦争及び解放戦争の中で民衆教育、宣伝の手段として重要な役割を果し、また著しく発展し、解放後は絵画の一部門を占めるようになった。図は白描、水彩、ペン画、素描風のものなどさまざまである。

本誌は一九五一年六月に月刊として創刊されたが、一九六一年に停刊し、一九七三年十月に再び月刊で復刊された。每期十数篇の連環画と評論もしくは創作談の短文を載せる。現在、発行部数は每期百十万余部という。

24、「故事画報」

「故事画報」編輯部編集。天津人民美術出版社出版。隔月刊。B5判。四十八ページ。〇・二八元。

一九八〇年夏創刊。每期、中国の革命戦争や国民的英雄の伝記、古典文学、歴史上の故事、西欧の文学などをもとにした十篇前後の連環画と連環画に関する短い評論、もしくは連環画関係の消息を載せる。

25、「富春江画報」

富春江画報編輯部編集。浙江人民美術出版社出版。月刊。B5判。毎期五十二ページ。〇・三二元。

本誌はもと「工農兵画報」の題名で一九六七年六月九日、創刊されたもので、一九八一年に「富春江画報」と改められた。

毎期、革命戦争、中国古典文学、現代文学、外国文学などをもとにした十篇前後の連環画を主とし、内外の絵画数点をカラー図版で紹介し、合せて画理・画法に関する短文、美術家紹介などを載せる。

## 26、「奥秘」

雲南省科普及美術攝影協会「奥秘」画刊編輯部編集・出版。隔月刊。B5判。毎号四十四ページ。〇・三〇元。

本誌は科学知識の普及を目的とする連環画の期刊で、内容は「美しい雲南」「科学普及園地」「科学史話」「科学家の故事」「自然の謎」「奇聞録」などの項目の下にそれぞれ二、三篇の連環画を置いている。

一九八四年第五期が総第二十八期に当る。一九八五年から月刊の予定。

## 27、「連環画研究」

連環画編輯室編集。上海人民美術出版社出版。不定期刊。B6判。八十ページ。定価表示無。

一九五五年創刊。発行年月を記していないが一九八四年十月現在総第二十四期まで刊行されている。内容は創作、連環画史、連環画運動などに関する論文が主で、例えば総第二十三期には候徳剣「黙写から連環画制作に至る」、大魯「脚本は絵画完成後に書き改める——連環画文学特点之一」、邵勁之「古代長卷遺産と連環画創作」、賀友直「構思構図に関して——連環画創作通訊」、李白英「連環画脚本の文学性撫談」、費声福「略動幾筆、増色不少」、黎魯「新美術出版社の回想」、肖甘牛「天桃開花朵朵連」、盧世澄「四大名旦——連環画今昔談之六」などの文章と図解による王大保「現代常規武器参考資料 五」とを収める。

## 28、「漫画選刊」SELECTED CARTOONS

漫画選刊編輯委員会編集。人民美術出版社出版。不定期刊。B5判。四十八ページ。〇・四〇元。

一九八二年八月創刊、一九八四年三月現在第五輯まで刊行。内容は時事漫画、諷刺漫画を主な対象とし、中国の漫画家の紹介、国内各地の漫画界の消息、内外の新聞に発表された漫画の転載、漫画創作に関する短評などを主とする。第五輯ではアメリカの政治漫画家 Herblock の紹介に四ページを当て、同じくアメリカの O. Soglow の The Little King を五ページにわたって掲載している。中国の漫画の動向を知る上で最も重要な期刊である。

## 29、「諷刺与幽默」

人民日報文芸部編集。人民日報社出版。半月刊。タブロイド判（三九・三×五十四・六センチ）二ツ折四ページ。〇・〇四元。

一九七九年一月創刊以来、「人民日報漫画増刊」として発行されている。第一、第四ページを多色刷りとする。内容は時事及び社会を対象とした諷刺漫画と戯評漫画を主とする小型新聞で、二齣乃至数齣の場合もあるが、大部分は一齣のものである。

なお、創刊から一九八二年末までに本紙に発表された漫画からすぐれた作品を集めた「諷刺与幽默選集」第一輯が一九八四年に刊行されている。

(以下次号)